



歴史的資源を活かした

まちづくり  
ガイドブック

令和 2 年 5 月

一人からでも  
始められる

歴史的資源を活かした

まちづくり  
ガイドブック



兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課 (TEL 078-362-4324)

本ガイドブックに関するホームページ  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks18/reki.html>



## ジブンゴト 自分事からはじめよう

みなさんはこんなことを思ったことはありませんか。

「子供たちも一緒に楽しめるレストランがほしい」

「近所に空き家が増えて寂しいなあ」

また、やりたいことや悩んでいることがあるのではないのでしょうか。

「趣味を仕事に活かしたい」

「親から受け継いだ家や土地をどうしよう」

自分の思いややりたいことを、楽しみながらカタチにしていけば、

まちはずっと住みやすくなっていきます。

## 「歴史」が手がかりになる

「でも、何からはじめたらいいのだろう…？」

みなさん、そう思いますよね。

では、みなさんのまわりに目を向けてください。

まちには、時間をかけて育んできた歴史と資産があります。

古くからある町家、慣れ親しんだまちなみ、伝統ある祭、地域の気候に適した農作物…

これら歴史ある資産は、まちづくりの資源となります。

また、小さなお社、朽ちかけた空き家、雑草が生い茂る空き地…

そこも上手に使えば、魅力のある資源に生まれ変わります。

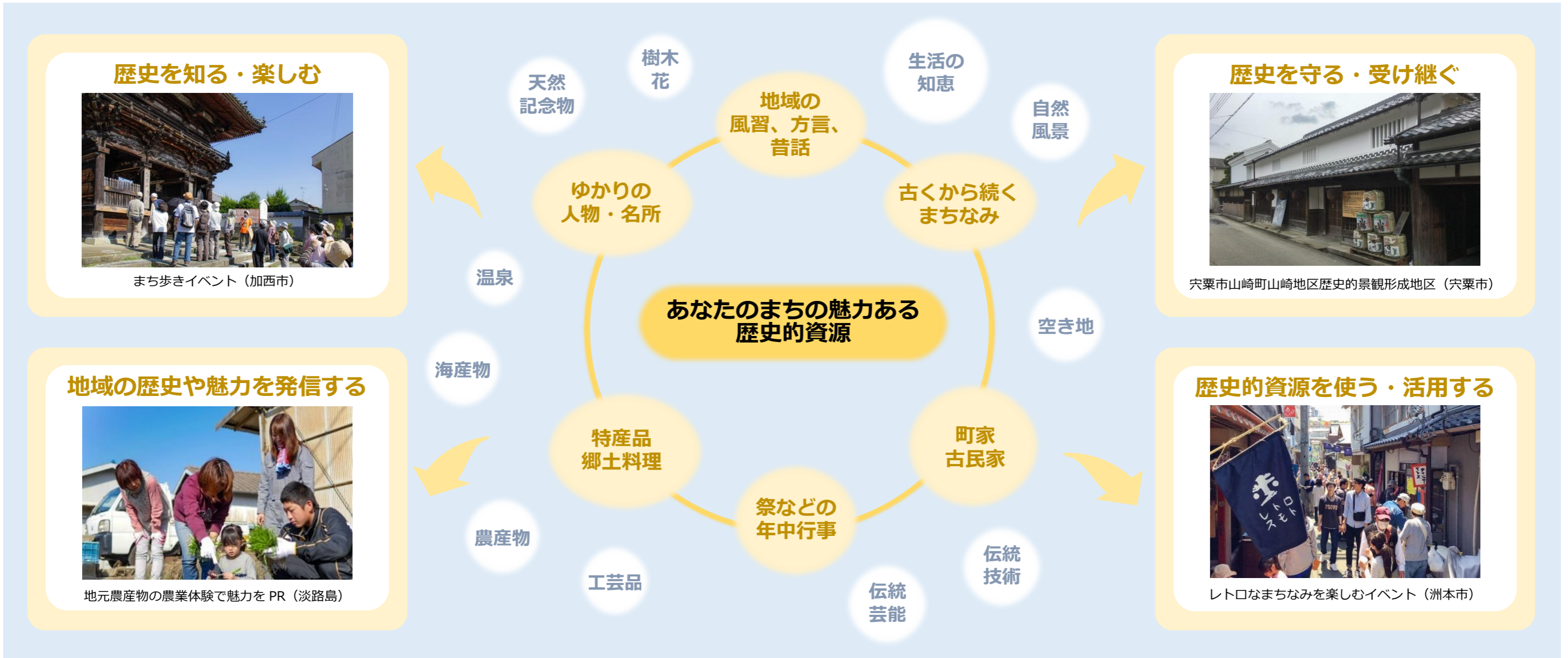
さあ、みなさん。

このガイドブックを読んで、まちづくりに向けての手がかりを見つけてみませんか。

# 歴史的資源を活かしたまちづくりって何？



## どんなふうにするの？



※ここに記載しているもの以外にも様々な資源があります。

## どうなるの？

住んでいる人が  
まちに誇りを持ち  
好きになる

お店や交流拠点が増え  
住みよいまちになる

多くの人を訪れる  
賑わいのあるまちになる

このまちに住みたい  
と言ってくれる  
ファンが増える



### 水野さん (三木市・20代女性)

閉店した親戚の魚屋さんを地域の交流の場とするため、個性的な雑貨や食品の販売・写真展などのイベントを開催



## 色んな人と話し、背中を押されました

東京の大学に行っている間に、子どもの頃大好きだった親戚の魚屋「魚武」が閉店しました。昔のようにお年寄りが井戸端会議をして、店の周辺で幼い子が駆け回る、そんな場所をよみがえらせたいと思い、自分に何ができるか考え始めました。

ただ、どうしたらよいか分かりませんでした。

一人で考えても仕方がないので、とにかく色々なまちづくりイベントに参加、運営も手伝いました。そこでたくさんの人と出会い、話をする中で、「みんなで考えたらどうか」と背中を押されました。

それがきっかけで、みんなと魚武について考えるイベントを開催。私だけでは考えつかなかったような、素晴らしいアイデアが生まれるイベントとなりました。その経験が、今の活動につながっています。



### 水田さん (加西市・70代女性)

北条旧市街地の魅力を発信するため、様々なイベントを開催しつつ、国登録有形文化財「水田家住宅」でカフェ兼旅館を運営



## おしゃべりできるカフェをつくりました

生まれ育った北条のまちの魅力を伝えるため、観光ガイドボランティアを務めるとともに、地域の方々と協力し、古い町家を活用したイベントの開催などに取り組んできました。

元々、人とおしゃべりするのが大好きだったので、町を歩く観光客に気軽に立ち寄って一休みしてもらい、交流できないかと考え、カフェの看板を掲げました。訪れた方との交流は楽しく、再訪してくれたり、お付き合いが続くケースも少なくありません。

でも、カフェが最終目的ではなく、まだまだ、まちづくりや交流を進めたいし、もっとよい形で息子の代に家を引き継ぎたいと思っています。今は、夫のDIYで蔵を改修し、資料館を開いてお客さんに楽しんでもらえたらと、夫婦で奮闘中です。

最初のきっかけは何だったのでしょうか。今活躍している人たちに聞いてみました。

すると、周囲からの後押し、自身の夢への思い、仲間との存在など、ふとしたことから始まっていました。



### よぶど 与布土地域自治協議会 (朝来市)

「まちの問題は自分たちの力で解決する」ことをモットーに、市と連携しながら、地元の住民や事業者などが活動を展開



## 思い切ってアイデア実現に挑戦しました

集落の将来を見据え、地域力を高めるためにも財源の確保が必要となることを協議会で話し合う中で、みんなでアイデアを出しあい、民俗資料館となっていた古民家を拠点に、コミュニティビジネスに挑戦することになりました。

経営・食材調達・シェフ確保などのノウハウがない中、色々な職業のメンバーの知恵を結集した農家レストラン「百笑茶屋 喜古里」をはじめました。

これまで何度もくじけそうな事がありましたが、今では郷土料理を味わえる人気店となっています。振り返ってみると、思い切って始めてみるこつて大事だなと思っています。



### 岩國さん (加西市・20代女性)

市がリノベーションした空き家を活用して、コワーキング・レンタルスペースも備えたゲストハウスを運営



## 夢をかなえたいと決心しました

加西市で生まれ育った私は、人との交流が好きだったので、旅先ではゲストハウスに泊まるようにしていました。そうしていろんな人の価値観や人生を知るなかで、みんなが幸せに暮らせる場所・理想のコミュニティとしてゲストハウスをつくりたい！と強く思うようになりました。

そんなとき、交流があった仲間から、市が進める北条旧市街地リノベーション事業のなかで、ゲストハウスの運営者を探していることを知りました。夢だったゲストハウスを開けること、生まれ育った加西市のまちづくりに協力できること、仲間と一緒に取り組めることから、楽しそうだと思い、ゲストハウス「HOJO MACHI HOSTEL」を開きました。

その後は仲間と協力し、ゲストハウスを運営しつつ、まちを元気にする活動にも取り組んでいます。



やりたいことがあっても、最初から本格的に取り組むことはなかなか出来ないかもしれません。でも、その第一歩は小さなことでよいのです。まずはできることから始めるのがポイントです。

## 目指すはこんなコト

### 子供たちにまちの良さを伝えたい

伝統的町家や特産品など自慢できるものがまちにあれば、住む人がまちに誇りを持ち、好きになります。

### お店や交流の拠点がほしい

おしゃれなカフェや子育て支援施設、まちの保健室などが増えれば、まちが住み良くなり、魅力がアップします。

### 賑わいや活気を取り戻したい

古くから続くまちなみや特産品などを観光・交流に活かせば、人がたくさん訪れてまちが賑やかになります。

### 伝統・文化の担い手を増やしたい

地域の暮らしや祭の魅力を発信し、住みたいと言ってくれるファンが増えれば、移住・定住につながります。

## コレをするのが理想だけど…

### 町家を住民や子供たちの交流拠点に改修

地域住民によるイベントや活動も考えられます。

### 古民家にお洒落なイタリアンレストラン誘致

古民家のよさやレトロなまちなみを活かすと効果的です。

### 木造の旧校舎で地元農産物の試食イベント

魅力を伝えるイベントだけでなく、施設整備も考えられます。

### 祭のPR冊子作成・里山の自然体験イベント

体験イベントやネットでのPR、町家でのお試し居住なども考えられます。

## まずはココから始めよう！

- 魅力的な町家をめぐるまち歩き
- 空き地や公園で子供たちを集めた交流会

- 近くの古民家レストランを食べ歩き
- レストランのイメージを仲間と話し合い

- 農業ボランティアに参加
- 他のまちのイベントにお試し出店

- 写真撮影の勉強会でスキルアップ
- SNSで里山での暮らしの魅力を発信

## あなたのまわりに目を向ければ、身近なものも資源になります

“私のまちには、そんな自慢できるようなものはないから・・・”といませんか？しかし、あきらめるのはまだ早いかもしれません。やり方によっては、身近な資源をキラリと光らせることができます。

### 手つかずの古民家、古い酒蔵

古すぎて使えないのでは？

### 少しの工夫で印象は変わります

DIY や必要最小限の改修、花や緑で飾ることなどでも、印象は大きく変わります。特に小さなまちでは、ちょっとした工夫がまちへ大きな影響をもたらします。

### 歴史上の人物ゆかりの地、遺跡

そんなに価値は無いのでは？

### 特色を出すことで資源に変わります

人物や時代を意識した体験イベントの開催、インスタ映えする写真のSNSでの発信など、上手に使える、資源として活用できます。

### よくある名所、点在する町家、地元の野菜

一つでは人を呼べないのでは？

### つなぐことで魅力がアップします

町家や名所を結ぶスタンプラリーや謎解きイベントの開催、地元の野菜を使った町家レストランの開店など、資源をつなぐことで新たな魅力が生まれます。



# できることから やってみよう

まちを歩いてみる  
イベントに参加してみる  
SNSで配信してみる

まずはちょっとしたことから  
行動してみてもいいですか？

いろいろな取組が結びついて  
あなたの思いが実現していきます

- 「知る」
- 「実行する」
- 「支える」

仲間を見つける  
(P.21)  
イベントに参加

調べる  
(P.11)  
色んな人から助言

発信する  
(P.12)  
体験型イベント

地域資源を使う  
(P.13)  
特産品・農産物販売  
伝統・文化の体験

環境を整える  
(P.22)  
まちなみの修景、道路整備  
生け垣、植樹

建物を使う  
(P.15)  
古民家を改修して  
レストランに

だんだんカタチになってくれば  
同じ思いを持った人と出会えます  
そして なかまと一緒に  
思いを共有していけるはずです

イベントを開催する  
(P.17)  
まち歩き、スタンプラリー  
アートイベント  
マルシェ

発信する  
(P.12)  
SNS、チラシ

調べる  
(P.11)  
勉強会・セミナー

環境を整える  
(P.22)  
看板、案内板

仲間を見つける  
(P.21)  
グループ・ネットワークづくり  
建築士や経営者から助言

調べる  
(P.11)  
みんなの思いを聞く  
ワークショップ

つなぐ  
(P.19)  
ストーリー化、面的展開

建物を使う  
(P.15)  
空き家子育て支援施設や  
交流拠点に活用

出会いあふれる  
にぎわいのまち

このまちに住みたい  
ファンが増える

私もみんなも  
好きなまち

お店や交流の場がある  
住みよいまち



- 勉強会やセミナー、まち歩き等を通じて、まちの歴史、なりたち、特徴等を知ることができません。
- まちを知ることで、歴史的な資源活用のヒントとなり、地域の魅力を引き出す取組へとつなげることができます。
- たくさんの人たちと出会い、新しいネットワークをつくっていく絶好の機会になります。

どうやるの？

まちの歴史・なりたちを知る

- ・どのようにして今のまちができたのか、まちの図書館・博物館・資料館等に行って調べてみましょう。
- ・郷土史家など地域の歴史を調べている人に講師になってもらい、勉強会やセミナーを開きましょう。
- ・昔の暮らしについて、古い家に住んでいるおじいさん・おばあさんなどに話を聞いてみましょう。

地域の資源を見つける

- ・まち歩きイベントを開催し、建物・特産品・農産物・植物などまちの資源を探してみましょう。

住民の思い・考えを聞く

- ・まちの良さ、魅力、課題などについて話し合うワークショップを開いてみましょう。
- ・自治会役員と意見交換してみましょう。

取組を調べに行く

- ・地域のまちづくり団体の活動や行政の取組について、団体役員や市役所・町役場に聞いてみましょう。
- ・他の地域でまちづくりに取り組んでいる人の話を聞きに行ってみましょう。

ココがポイント！

- ・まちの図書館や資料館では、司書や学芸員など地元で詳しい人たちに話を聞いてみましょう。
- ・勉強会をスムーズに進めるために、まちづくりの専門家などに司会を頼むと効果的です。
- ・新たな発見につなげるためには、多くの人々の意見や考えに触れることが大切です。
- ・調べた資源をリスト化し、誰でも見られるようにすると、次の取組へのヒントになります。
- ・まちを知る活動に自治会や住民団体、地域の事業者、行政など様々な人が参画することで、仲間づくりにつながります。

勉強会を開催してまちの歴史を知る（三木市）

- ・三木市では、旧市街地のビジョンの検討に向けて、改めてまちを知るため、市役所関係課で情報共有や取組アイデアを考える勉強会を開催しました。
- ・これにより、市関係課間で連携が生まれ、計画づくりやイベント検討につながっています。



ワークショップで住民の考えをとりまとめ（加西市）

- ・加西市では、北条旧市街地の活性化に向け、まずは地域の歴史や特徴の把握に努めました。
- ・文献での情報収集や専門家を招いたまち歩きでまちなみや町家の良さを学びました。さらに、ワークショップで住民のまちづくりへの思いを把握し、取組の参考にしました。
- ・この調査でニーズのあった交流拠点などを整備し、これらを中心にまちづくりを進めています。



- 多くの人々にまちの魅力を知ってもらうため、様々なチャンネルを通じて発信することは大切です。
- まちのことや自分の取組を伝えることで、知名度が上がり、まちやイベントへの誘客につながります。
- 一緒に取り組んでくれる仲間、応援してくれる人を増やすことができ、活動の幅を広げることができます。

どうやるの？

誰にどんなことを伝えたいのかによって、発信する手段を選びましょう。

SNS (Twitter、Facebook、Instagram など)

- ・若者や女性などを対象に、まちの近況やイベント情報などを、お金をかけずにタイムリーに発信できます。
- ・Twitter や Facebook は、イベント情報や現場の状況などを文字と写真で発信するのに効果的です。
- ・Instagram は、見栄えのする写真（インスタ映え）を発信するのに効果的です。

ホームページ

- ・自分の好きなフォーマットで発信できます。
- ・観光スポットの紹介やまちの歴史など、基本的な情報を発信するのに向いています。

地域の観光・イベント情報ポータルサイト

- ・特定の目的を持った利用者に発信できます。

地域情報誌

- ・特定のエリアの住民に発信したい時に有効です。

回覧板、チラシ

- ・回覧板は特に地元住民に発信したい時に有効です。
- ・チラシは発信範囲を自分で決めることができます。
- ・インターネット環境がない方に伝えたい場合、特に効果的です。

体験型イベント

- ・まちの魅力を実際に体験してもらえらるため、字や写真よりも効果は大です。

ココがポイント！

- ・SNSで発信する場合、他の手段でも発信し、自分たちの取組に興味を持ってくれる方を増やす必要があります。
- ・ホームページや地域情報誌は、デザインの得意な方を仲間に迎えましょう。
- ・地域情報誌やチラシにクーポン券などの特典をつけると効果的です。

地域での暮らしの魅力を情報誌でPR（宝塚市）

- ・豊かな自然に囲まれた西谷地域の魅力を発信する「宝塚にしたに里山ラボ」は、都市部の人へ地域の野菜を使ったレシピの冊子を配布しています。
- ・また、子どもたちの里山での学びに向け、自然を使った遊びを紹介する冊子も配布しています。
- ・これらはSNSでも発信し、西谷の「食」や「暮らし」に興味を持つ人や、訪れる人の増加につながっています。



体験型イベントでまちの魅力を発信（淡路島）

- ・交流人口増加を目指す「NPO 法人あわじ FAN クラブ」は、島の魅力を知ってもらうのが大切であることから、神戸や明石など都市部の人を対象に、特産品の玉ねぎを使った農業体験イベントなどを実施しています。
- ・島での暮らしに触れてもらうことで、実際の魅力を肌で感じてもらうことができ、淡路島への移住へとつながっています。



- 農産物、特産品、祭等のなじみのある地域資源は、気軽に楽しくまちづくりを進める素材として欠かせません。
- 地域資源の活用は、特色ある魅力的な取組になり、他との差別化が図れます。
- 地域資源を活用した商品開発などは、持続的な取組や新たな取組を展開していくための収益源となります。

どうやるの？

### 農産物・特産品等の活用

- ・地元の農産物や特産品の販売、それらを利用した新たな特産品を開発しましょう。
- ・農産物を素材に、収穫体験イベントや料理教室を開催しましょう。
- ・地域固有の花や植物を住民と連携して植栽し、まちなみ景観に新たな魅力を加えましょう。
- ・地域の焼き物の軒先展示、染め物ののれんかけなどで、統一感のあるまちなみに変わります。

### 歴史コンテンツの活用

- ・特色ある地域の歴史を素材とした、地域のブランディングに取り組みましょう。
- ・地域にゆかりのある歴史上の人物や場所を巡るツアーを開催しましょう。

### 伝統・文化・自然の活用

- ・祭の写真展や勉強会、インスタ映え写真のSNS発信などで新たな魅力を発見してみましょう。
- ・着物の着付け、お茶、染物などの体験は、伝統・文化のよさを再認識できる機会になります。

ココがポイント！

- ・地域資源の希少性、学術的な価値、見た目、インパクトなど、特色をより磨くことを意識しましょう。
- ・モノだけでなく、伝統芸能・伝統技術など文化的なスキルを持つ人にも注目しましょう。
- ・町家や古民家での特産品販売など、資源の組み合わせにより、付加価値の向上や誘客につながります。
- ・商品開発では経営コンサルタント、歴史を素材とした取組では歴史家など、専門家からのアドバイスで発想が広がり、次の企画につながります。

### 地域の特産品モロヘイヤを商品化（上郡町）

- ・上郡町の「<sup>くろい</sup>鞍居地区ふるさと村づくり協議会」は、健康に良いとされる地域の隠れた特産品だったモロヘイヤに着目し、粉末加工品として商品化に成功し、地域での販売に加え、通信販売も実施しています。
- ・この経験が地域の固有種「<sup>くろいもも</sup>鞍居桃」のコンポート化やジャム化につながりました。
- ・地元高校生との協働開発は、地域の誇りづくりにもつながっています。



### マルシェやファッションショーで豊岡鞆をPR（豊岡市）

- ・「<sup>よいた</sup>宵田商店街振興組合」「<sup>よいた</sup>宵田・<sup>もとまち</sup>元町地域まちなか再生協議会」は、豊岡鞆の産地を知ってもらおうと、豊岡鞆をPRする「カバンストリートファッションショー」を開催し、動画での配信も実施しています。
- ・そのほか定期的なマルシェも開催。これらイベントの誘客効果もあり、カバン店の集積にもつながり、地域の活性化に貢献しています。



## <コラム> “ブランディング”を考えてみる

“ブランディング”とは、ブランドに対する共感や信頼などを通じて、来訪者にとっての価値を高めていく組織のマーケティング戦略の1つです。

まちづくりの分野における“ブランディング”とは、歴史・伝統・文化・自然・暮らしなどの「地域らしさ」を活かし、他にはない地域の魅力や資源の価値を高めたり知ってもらったりすることでアイデンティティを確立し、地域内外の人びとの共感や信頼を積み重ねることです。

“ブランディング”に向け、「地域らしさ」を最大限活かした取組や活動とするためには、特産品であれば品質の向上や希少性の創出、まちなみ・建物であればテーマの設定やお墨付き、歴史・伝統・文化であれば情報発信や体験など、様々な工夫が考えられます。

あなたのまちでは、どんな工夫ができそうか考えてみませんか。

### ○特産品・農産物

- 品質** 自然を活かした無農薬野菜、住民の手づくりジャムなど、消費者の心に響く安心の品質を実現する。
- デザイン** デザインが得意な人の協力を得て、特徴が分かりやすく、目を引くパッケージデザインにする。
- シンボル** 特産品や農産物のパッケージなどに使えるような、資源を象徴する共通のロゴマークをつくり、PRする。
- 希少性** 購入店舗、飲食スペース、季節などを限定して、希少性（レア感）を出す。



印象的なロゴマーク（城下町洲本再生委員会）

### ○建物・まちなみ

- テーマ** 「酒蔵を中心とした商店が建ち並ぶまちなみ」「花や緑があふれるまちなみ」など、地域住民や関係者などで共有しやすいテーマに沿って、まちづくりに取り組む。
- お墨付き** 伝統的建造物群保存地区や景観形成地区の指定、有形文化財の指定・登録、景観形成重要建造物の指定など、行政から歴史的な価値を持つことのお墨付きをもらう。
- ネーミング** “天空の城「竹田城跡」”など、印象的でわかりやすいキャッチフレーズを打ち出す。



酒蔵をテーマとした町（宍粟市山崎地区）

### ○歴史・伝統・文化（文化財、祭などの年中行事、地域の風習、歴史上の人物など）

- お墨付き** 無形文化財・民俗文化財の指定・登録など、行政から歴史的な価値を持つことのお墨付きをもらう。
- 情報発信** 祭りの様子のSNS動画配信、見た人が伝えたい感動的な仕掛けなどにより、魅力を広く知ってもらう。
- 体験** AR※を活用して歴史上の人物と写真撮影ができるなど、現地では体験できない楽しめるしかけをつくる。

※AR（拡張現実）とは、スマートフォン等を通して、実際の風景に文字・イラスト・音声等を重ね合わせる技術のことです。



県指定文化財 住吉神社龍王舞（加西市）



- 歴史的な建物の、温かみや趣のある雰囲気を活かすことは、まちづくりをすすめる上で重要です。
- おしゃれなカフェ、子育て支援施設、お年寄りの居場所などに多く活用されれば、まちの魅力がアップします。
- 訪れた人が建物の良さや魅力を感じ、まちの資源として建物を再認識することで、次の取組へとつながります。

どうやるの？

用途の検討

- ・自分の趣味やスキルを活かした店舗や施設、地域資源を活かしたカフェやレストランなど、歴史的な建物に新たな魅力を持たせた用途としましょう。
- ・アンケートやワークショップにより、どんな店舗や施設が必要か、ニーズを把握する方法もあります。

場所や建物の選定

- ・まちを歩いて用途に合った場所・建物を探しましょう。
- ・自治会長や不動産屋さんにも聞く方法もあります。

取組に合った改修・再生

- ・建物の改修には法規制・設計・運営・費用など様々な課題があります。建築士・大工棟梁・ヘリテージマネージャーなどの専門家と連携・協力しながら、改修方法を選びましょう。

①古いまま使う

古いままの良さを活かすことができます。

②DIY（自分たちの手で改修）

DIY が得意な建築士の方や大工さんと協力すれば、費用を抑えながら、趣のある改修ができます。

③小さく改修

費用を抑えるため、段差解消や水回りだけなど優先順位を決めて必要最小限に改修する方法です。

④大きく改修

費用はかかりますが、用途に合ったリノベーションなど大規模に改修し、使いやすい空間にできます。

管理・運営

- ・「この建物をどう活用するか」考えるイベントを開催し、設計や運営に興味のある人を探してみましょう。
- ・地域の交流拠点などの場合、自治会やまちづくり団体が管理・運営する方法もあります。

資金の確保

- ・検討当初は自己資金を準備して、それで何ができるか考えましょう。
- ・改修方法を見直したりしても資金が足りない場合、行政の補助金やクラウドファンディング等の外部資金を活用する方法もあります。

ココがポイント！

- ・建物を選定する場合、建物所有者との信頼関係が大切です。地域で信頼されている方の協力を得ることがカギとなります。
- ・一緒に使い方や改修プランを考え、DIY により改修することは、建物に愛着を持つだけでなく、仲間づくりにもつながります。
- ・地方都市では、空き家の所有者も扱いに困っており、固定資産税相当額の安い賃料で賃借できるなど、少ない負担でチャレンジできることもあります。
- ・かつてのまちなみや雰囲気をよみがえらせるための情景は、地域の魅力向上や誘客につながります。

アンケート等でニーズをつかみレストラン開業（丹波市）

- ・まちの活性化に取り組む「株式会社まちづくり柏原<sup>かいはら</sup>」は、住民アンケートやワークショップを実施し、本格的なパスタが食べられるレストランがほしいとの声が多く寄せられたことから、プロのシェフに声をかけ、イタリア料理店の経営を始めました。
- ・ニーズを踏まえていたことから来店者が多く、今でも人気店として継続しています。
- ・さらに、遠方からの来店も増えて近隣の空き家活用へとつながり、エリアの価値が向上しています。



地元有志の団体が改修・運営（神戸市）

- ・地元有志で結成された「<sup>おうちしゅくほんじんあつ</sup>淡河宿本陣跡保存会」は、60年以上空き家であった本陣跡の町家を地域の交流拠点として再生し、同団体が運営しています。
- ・再生にあたっては、ワークショップを開催し、地域内外からの参加者が改修や清掃を行いました。
- ・また、活用アイデアや修繕・清掃の手伝い等を行うサポーターを募集し、地域住民や興味を持ってくれた人との仲間づくりにも取り組んでいます。
- ・これらの取組により、町家に対する愛着や誇りが生まれ、歴史的資源としての魅力が向上しています。



部分的に建物を活用（加西市）

- ・加西市は、北条旧市街地のリノベーション事業として4軒の空き店舗を改修し、そのうち元印章店は地域交流拠点として再生しました。
- ・選定した建物は規模の大きな店舗併用住宅で、交流拠点で建物すべてを活用することは困難でした。改修費用に限りがあったこともあり、必要な部分のみの改修で利用しています。
- ・通常は建物の一部利用ですが、イベントなどでスペースが足りなくなった場合は、建物所有者の承諾を得て、隣接する空き室をギャラリーやワークスペースとして使用しています。



用途に合った場所を選定（加西市）

- ・加西市は、北条旧市街地のリノベーション事業として4軒の空き店舗を改修し、そのうち元菓子店はソーシャルキッチン・カフェとして再生しました。
- ・飲食店であるとともに、地区外の出店者がまちを知るきっかけとなる場、地域住民との交流を通じたネットワーク形成を図る場とするため、人の目につきやすい交差点に位置する建物を選定しました。
- ・みんなのまちへの思いを木片に書いてもらい、店の壁にディスプレイすることで、店での取組等を応援してくれる人の増加につながっています。



クラウドファンディングで空き店舗再生（加西市）

- ・加西市は、北条旧市街地のリノベーション事業として4軒の空き店舗を改修し、そのうち2軒をゲストハウス、飲食店として再生しました。
- ・改修費用は、市助成のほか2軒ともクラウドファンディングで集めることとし、ゲストハウス159万円、飲食店235.4万円の調達に成功しました。
- ・ゲストハウスでは、改修費用を抑えるだけでなく、取組を応援してくれる人の増加に向け、漆喰壁塗り&天井塗装のDIYワークショップを開催しました。



- イベント開催は、その参加者に加え、所有者や運営者にとっても、資源の魅力や価値を知る良い機会になります。
- 歴史的まちなみなどの「場」と祭などの「伝統・文化」を活かすことで、付加価値向上や誘客につながります。
- 連続したイベントの実施は、エリアとしての価値が向上し、定期的・恒常的な取組につながります。

どうやるの？

### まちの魅力を共有するツアー・セミナー

- ・まち歩きやスタンプラリーなどにより、まちの資源をめぐってもらうツアーを開催しましょう。
- ・まちの歴史に詳しい人や専門家を講師に招き、埋もれた魅力の体感セミナーを企画しましょう。

### 町家や古民家に触れるワークショップ

- ・活用も視野に、住民や関心のある人に呼びかけ、町家などの空き家の掃除や片付けをしましょう。
- ・知り合いの建築士・大工棟梁・ヘリテージマネージャーなどと連携し、古民家改修ワークショップを開催しましょう。

### 資源の魅力を実感できる体験型イベント

- ・まちなみを舞台に、子供たちがつくった灯りを沿道や川沿いに並べ、着物で歩いてみましょう。
- ・寺社や町家などを舞台に、結婚式・演奏会・ヨガ教室・アートイベントなどを開催してみましょう。
- ・地元でとれた野菜や特産品を販売する朝市やフリーマーケットを開催しましょう。
- ・地域のシンボルとなる花や樹木をみんなで植えるイベントを開催しましょう。

ココがポイント！

- ・場所を古民家とする、地元の食材を使うなど資源の特色を活かすことで、新たな魅力が生まれます。
- ・テーマやターゲットを明確に設定すると、興味を持つ人の共感が得られ、交流へとつながります。
- ・地域の子供たちが関わる仕掛けは、その家族や地元の人々の参加・応援に結びつきます。
- ・一部屋だけ使う、軒先だけ使う、一日だけやるなど、小さくても試しにやってみれば、楽しさが実感でき、周囲の人たちも協力的になります。
- ・建物だけでなく空き地も、イベント時の休憩所やステージなどの空間として活用できます。

### レトロなまちなみを体感できるイベント（洲本市）

- ・「城下町洲本再生委員会」がレトロな雰囲気に残る空き家を活用し、淡路島の食材を使ったグルメや手作り雑貨などの出店を開き、まち歩きを楽しむ「城下町洲本レトロなまち歩き」を開催しています。
- ・このイベントで多くの来場者があり、色んな人に注目され、まちとしての価値が高まったことで、空き家が店舗等に生まれ変わっています。



### 200年の歴史を持つ古民家を舞台に結婚式（三木市）

- ・三木市では、古民家「旧玉置家住宅」(国登録有形文化財)において、外国人に和風の結婚様式を体験してもらうイベント「古民家ウエディング」を開催しました。
- ・外国人が古民家で結婚式を挙げることで、新たな魅力を引き出し、外国人だけでなく地元の人たちからも玉置家の存在が注目されました。



## <コラム> 活動を支える資源（人・物・資金）の確保について

まちづくりに係る様々な活動を展開していくためには、人・物・資金の資源をうまく組み合わせ、活用していくことが大切です。

具体的な活動は、人や物を中心とした今ある資源を用い、取組を検討することから始まりますが、目指す活動を実行に移すためには、整備や活動にかかる資金を新たに確保する必要があります。

地域の実情に即した、資源の確保を考えてはどうでしょうか。

### ○人の確保

自分たちの思いを発信

自分たちの取組や考えていることを発信することで、地域住民や応援してくれる人がボランティアとして手伝ってくれることもあります。

イベントや交流会に参加

仲間づくりを目的としたイベントや交流会への参加は、やりたいことや目指すところが同じ人との出会いや、協働して取り組む活動へとつながります。

専門家などのアドバイス

様々な職業やスキルを持つ専門家やまちづくりに取り組む人に話を聞くことで、新たな発見につながるだけでなく、意見交換や助け合いができるネットワークが生まれ、活動の幅が広がる可能性があります。



住民ボランティアによる農産物加工（鞍居地区ふるさと村づくり協議会）

### ○物の確保

仲間同士の助け合い

様々な人との交流を通じた仲間づくりによって、農産物・材料・備品の調達、会場使用料や建物賃貸料の低減等につながることもあります。

住民参加型イベント

看板や灯りなどの作成、古民家の漆喰壁塗り・天井塗装などを、住民参加型のイベントとして行うこともできます。

DIYなど自分たちで工夫

長い間空き家として放置され、老朽化が進んだ町家でも、自分たちで掃除・片付け・補修をすることで、活用できるものに生まれ変わります。



住民ボランティアによる建具の修繕（淡河宿本陣跡保存会）

### ○資金の確保

行政からの補助金

行政は補助金・アドバイザー派遣など様々な支援制度を設けていますが、要件や内容は、自治体・事業の種類・年度などによって異なります。まずは、「何を目的に」「何がしたいか」「何に困っているか」を整理し、お住まいの市役所・町役場に相談してみましょう。

※兵庫県でも「古民家再生促進支援事業」「空き家活用支援事業」「景観形成支援事業」「県いまちなみ緑化事業」等の支援制度を整備しています。

会費、協賛金・寄付金

地域のみんで助け合うことで、お互いの負担を減らすとともに、地域全体で取り組んでいる一体感が生まれます。

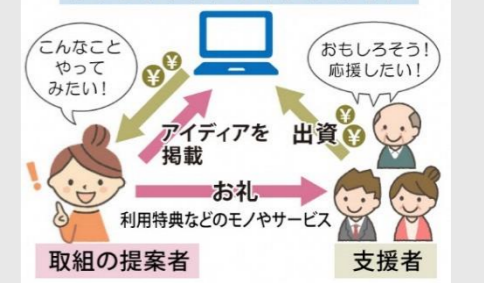
クラウドファンディング

インターネットで自分の取組を発信し、共感した人や応援してくれる人から資金を調達する仕組みで、ファンづくりの効果も期待できます。

その他

地域金融機関（地方銀行、信用金庫など）が、建物のリノベーションなどのまちづくり事業を行う民間事業者へ出資する等の支援もあります。

### クラウドファンディングサイト



クラウドファンディングの仕組み

※（一財）民間都市開発推進機構と地域金融機関が連携して取組を支援する制度もあります。

- 厚みのあるまちづくりにしていくためには、複数の資源の連携による面的な活用や、資源を共通のテーマでつなぐ資源のストーリー化が有効です。
- 一つの資源も、その役割や関係を明確にすることで面的な広がり生まれ、ブランディングにつながります。
- 点在する資源を歴史・文化・産業等をテーマにストーリー化することで、連続性・回遊性が生まれ、ツーリズムにつながります。

どうやるの？

面的な資源の活用

- ・連続・面的に集積する伝統的なまちなみを一体で保存・修景しましょう。
- ・ハード整備と併せ、歴史・文化を踏まえたまちのコンセプトやテーマづくりを行い、地域全体をブランディングしましょう。
- ・コンセプトに即して、町家や古民家を多用途で活用しましょう。
- ・住民・事業者・建物所有者などによるまちづくり団体が、地域全体のまちづくりに取り組むことも考えられます（エリアマネジメント）。

ストーリー化

- ・歴史・文化・産業等を調べ、複数の資源をつなぐことができるテーマやシンボルを探しましょう。
- ・独自の伝承やエピソードが無いが、資源の所有者に話を聞いてみましょう。
- ・それらをもとにテーマを設定し、資源をつなぐストーリーを描いてみましょう。
- ・ストーリーを踏まえ、具体的に活用・PRしましょう。

ココがポイント！

- ・まちに今はない、あればよいと思える施設や用途をつくり、つなぐと効果的です。（例：温泉でのアクティビティ、休憩所での特産品販売）
- ・地域の関係者だけでなく、専門家から外部目線でアドバイスを受けることで、新たな気づきやアイデアを得ることができ、訪れる方の心に伝わるストーリーづくりや面的な取組にすることができます。
- ・歴史が好き、自然風景が好き、「食」に興味がある人など、どのような人にストーリーを伝えたいか意識して活用やPRをすると効果的です。

「町全体をホテルに」がコンセプト（丹波篠山市）

- ・「株式会社 NOTE」は、篠山城下町のエリアを一つのホテルに見立て、町家を改修し、宿は客室、レストランは食堂、雑貨店は土産物屋、カフェは休憩スペースとしています。まち全体でのおもてなしにより、訪れた人は楽しくまちを巡ることができます。
- ・面的な取組がエリアの価値を向上させ、次の誘客や雇用の創出、若者の地方回帰につながっています。



「銀の馬車道・鉱石の道」でつなぐ（播磨～但馬）

- ・飾磨津（現姫路港）から生野鉱山、中瀬鉱山までを南北に結ぶ「銀の馬車道・鉱石の道」。かつて鉱産物や採掘・製錬に必要な資材等を運ぶ馬車や多くの人びとで賑わっていた73kmの道を、地域の資源を結ぶシンボルとしています。
- ・バスツアーやサイクリストレーンなど沿線の地域資源をめぐるイベントの開催、多方面からの情報発信などに取り組み、エリア一帯の各資源の魅力向上と賑わいづくりにつながっています。



酒蔵・町家・食・歴史をテーマにまちづくり（宍粟市）

- ・宍粟市山崎町の「よいまちプロジェクト（山崎中心市街地活性化委員会）」は、酒蔵・町家・食・歴史などの資源をテーマとして、賑わいのあるまちづくりを進めています。
- ・テーマに沿って町家を改修し、日本酒バーや焼き鳥店等に次々と生まれ変わらせています。
- ・それにより、古民家ホテル・酒蔵レストランなどの開業や空き店舗の営業再開などのケースが増え、エリアとしての価値が高まることで、空洞化が進んでいた商店街に賑わいが戻りつつあります。



「北前船」で県域を越えたストーリー（高砂市）

- ・日本海や瀬戸内海沿岸には、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落が存在していました。それら16道府県にまたがる地域を、「北前船」をキーワードとしてストーリー化し、日本遺産として認定されています。
- ・兵庫県内でも神戸市・高砂市・赤穂市・洲本市・姫路市・たつの市・新温泉町が認定されています。そのうち、北前船寄港地・高砂の港町に建つ、帆布の製造法を發明した工業松右衛門の旧宅は当時の生活の痕跡を残しており、ストーリー化とあわせて地域の価値が高まり、地域のブランディングへつなげていきます。



<コラム> まちや取組の将来像の共有について

まちづくりに携わる人たちのまちや取組への思いは様々です。まちづくりの小さな取組を大きな流れにしていくためには、みんなの気持ちを1つに束ねて取り組めるよう、将来像や目標を共有しておくことも大切です。皆さんで将来像を共有してみても良いでしょう。

○コミュニケーションによる共有

これから活動を始めようとする人、同じことに興味を持つ人など数人が、週一回など定期的あるいは気が向いた時に集まり、まちへの思いや近況を話し合うことで、お互いの認識をゆるやかに共有します。新たな情報や考え方に触れることで、自分のまちへの思いを再確認できたり、今後の活動へのヒントを得たりすることができるので、まちづくりの初動期に向いています。

○アクションプラン・実施計画の共有

空き家の改修やイベントの開催など個別のプロジェクトの成功に向け、活動メンバーが集まり、実施する手順や目標などを決めたアクションプラン・実施計画を作って共有します。問題が生じたときに行き当たりばったりとならず、自分たちが最終的に目指すことは何か、他にすべきことはあるかなどを再確認しながら取り組むことができます。

○ビジョン・まちづくり計画の共有

エリアの中でまちづくりに取り組む人たちが、まちの課題やまちづくりの方向性について話し合い、まちの将来像や目標、必要な取組などを決めたビジョン・まちづくり計画を作って共有します。様々な立場の人たちが一つの方向に向かって取り組むので、相乗的に成果があらわれるとともに、自分たちの取組を多くの人に理解してもらいやすくなり、地域全体で一体感を共有できます。

- 自分ができること、相手ができることを尊重し、また、仲間と協力・連携して取り組むことが大切です。
- 様々な職業やスキルを持つ多様な仲間と取り組めば、活動の幅が広がります。
- 仲間や専門家との意見交換・アドバイスは、新たなアイデアや気づきとなり、取組の底上げにつながります。

## どうやるの？

## 自分の思いを発信する

- ・同じ思いを持つ仲間を見つけるため、SNSなどで自分の思いを発信してみましょう。

## イベントや活動に参加してみる

- ・興味のあるイベントに参加し、体験を通じて人とのつながりを持つことができます。
- ・イベント運営やサポートに関わることで、スキルやノウハウを得るとともに、より専門性を持つ人々との交流やネットワークにつなげることができます。
- ・仲間づくりを目的としたイベントに参加しましょう。

## 話を聞きに行く

- ・実際やるうえでの細かい話やポイントやコツを教えてもらえることがあるので、まちづくりに取り組んでいる人に話を聞きに行ってみましょう。

## 交流会を開催する

- ・共感して応援してくれる人や、同じことに興味を持つ人と出会う可能性があります。

## 専門家等と連携する

- ・行政が専門家を派遣してくれる場合があります。
- ・大学と連携してまちに拠点を設け、学生と協力しながら活動を行う方法もあります。

## グループやネットワークをつくる

- ・やりたいことや目指すところが同じ仲間が増えると、グループやネットワークをつくることもできます。
- ・意見交換や助け合いが生まれ、活動が広がります。
- ・仲間との関係やまちの状況で様々なパターンがあるので、自分たちに合ったスタイルを選びましょう。
  - ①情報交換のためのネットワーク
  - ②同じエリアでまちづくりに関わる人のグループ
  - ③一つのプロジェクトの実現に向けて取り組む人のグループ
  - ④同じ分野に興味がある人のグループ
  - ⑤同じ世代のグループ

## ココがポイント！

- ・地域内の人だけでなく、時には地域外の人意見を聞くことで、資源の価値に改めて気づかされたり、新たな情報を得たりすることができます。
- ・自治会や地域おこし協力隊などの同じ地域で取り組む人や地域の顔となる人と仲間になると、地域の理解が得られ、取組を広げやすくなります。
- ・まちの歴史、建築、不動産、経営、緑化、SNS など様々な分野の専門知識を持つ方と仲間になることは、活動の新たなヒントを得る機会になります。
- ・当初は少ない仲間でも、粘り強く活動を進めるうちに、成果が実感でき、傍観している人や否定的な人も少しずつ協力的になってくれることもあります。

## 仲間づくりがイベント開催に発展（加西市）

- ・市のリノベーション事業により設置された4施設の運営者は、地域で活動してきたまちづくり団体や元地域おこし協力隊の方などです。
- ・当初は各自の事業を軌道に乗せるため、情報交換などを行う程度でした。約一年後、同工エリアでの取組継続に向けて連携が必要だと感じ、意見交換する関係からゆるやかなネットワークに発展しました。
- ・その中で今後の取組の展開を議論し、4施設合同で年末の年越しイベントを行ったほか、新しい仲間づくりにも積極的に取り組んでいます。



- まちづくり活動を誘発するような環境整備をすることは、まちづくりを盛り上げるためにとっても重要な要素です。
- 人材の発掘や育成は、新たな担い手による、継続した取組や新たな取組につながっていきます。
- 外部空間の整備や情報発信機能の充実等は、まちの魅力アップやさらなる誘客へとつながります。

## どうやるの？

## 人を発掘する・育てる

- ・まちづくり団体や行政等が主催するセミナーには、興味を持つ人が多く参加しています。セミナーでは、心に響く講演をしてくれる専門家を呼びましょう。

## 外部空間の整備

- ・山への参道や寺社のまわりの清掃、空き地の草取り、生垣の設置、沿道の植樹などをしましょう。
- ・昔ながらのまちの雰囲気を引き立てるよう、町家や看板の修景、のれんやのぼりの統一をしましょう。
- ・道路や街灯などを、まちなみの雰囲気に合うような色やデザインにしましょう。

## 情報発信機能の充実

- ・施設への道順を示した案内看板の設置やまち歩き用マップの作成を行いましょう。
- ・詳しい情報は看板の二次元コードからホームページに誘導することも有効です。
- ・Wi-Fiなどのインターネット環境を整備することも、まちに滞在しやすくなる効果があります。

## 交通環境の整備

- ・交通手段にあわせたアクセススポット、駅前広場、バス停、駐車場を地域として確保するのも必要です。
- ・歩行者優先道路、シェアサイクルの導入など安全・安心な周遊ルートの設定が大切です。

## 公共空間の維持管理

- ・エリアマネジメントなど、共同で道路・公園・駐車場などの公共空間を管理する方法もあります。

## ココがポイント！

- ・「取り組みやすくする」「来てもらいやすくする」等、「…やすくする」ことを考えましょう。
- ・仲間や住民・子供たちと一緒に看板の作成やデザインを考えると、長く愛着を持ってもらえます。
- ・共同での維持管理継続のため、イベント等での収益や施設所有者からの出資を充てる方法もあります。
- ・地域の皆が一丸となって、行政や民間事業者と連携・協力しながら取り組む必要があります。

## 住民とマップや看板など案内設備を作成（川西市）

- ・川西市北部の東谷地区で地域の歴史や文化を発信し、地域活性化に取り組む「ヒガシタニズム実行委員会」は、イラスト入り看板やまち歩きマップの作成、山の尾根にある三十三所巡りコースの清掃や整備を住民とともに実施しています。
- ・活動への参加を促すことで、住民が地域の魅力に気づくとともに、来訪者の増加にもつながっています。



## かつての酒蔵通りを思わせる修景（伊丹市）

- ・伊丹市の「伊丹酒蔵通り」は、かつて酒造業で栄え賑わった地区で、清酒発祥の地という歴史を活かしたまちなみ形成に向け、歩行者優先道路の美装化や街路灯整備、民間建築物の修景のほか、お酒にちなんだイベント開催などに取り組んでいます。
- ・多種多様なお店が軒を連ね、エリアの価値が向上し、賑わいの創出につながっています。

